



# 日本地球化学会ニュース

No. 241 June 2020

## Contents

年会のおしらせ .....	2
2020年度日本地球化学会第67回年会のお知らせ (2)	
研究集会のお知らせ .....	2
日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2020年オンライン大会「JpGU-AGU Joint Meeting 2020: Virtual」のご案内	
学会からのお知らせ .....	3
柴田 賢 会員のご逝去を悼む	

## 年会のお知らせ

### 2020年度日本地球化学会第67回年会のお知らせ(2)

日本地球化学会 会員の皆様

新緑が色鮮やかになる今日この頃ですが、会員の皆様はこれまでとは全く異なる日々をお過ごしになっていることと思います。

会員の皆様、ご家族、親類、知人の方で新型コロナウイルスに感染された方もいらっしゃるかもしれません。また、日常生活で少なからぬストレスを感じていらっしゃる方も数多くいらっしゃると思います。心より御見舞い申し上げます。

一方、会員の皆様の研究・教育活動にも多大な影響が及んでいることと思います。

例年ですと5月には日本地球惑星科学連合大会が開催され、6月には日本地球化学会年会の参加登録も始まります。

ご存じのように連合大会は7月12日から16日の予定でオンライン開催されることになりました。

本学会の年会は9月14日から17日の4日間、弘前大学で開催する予定で準備を進めておりましたが、オンラインでの開催に変更となりました。引き続き学生会員をはじめとする会員の皆様の学会活動が維持できるように最善の方策をとる所存であります。

今年度の年会の予定等につきましては、決定次第、皆様にお知らせいたします。

会員の皆様には引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

日本地球化学会  
会長 鍵 裕之  
副会長 益田晴恵、南 雅代

## 研究集会のお知らせ

### ●日本地球惑星科学連合 (JpGU)2020年オンライン大会「JpGU-AGU Joint Meeting 2020: Virtual」のご案内

会期：2020年7月12日(日)～7月16日(木)

詳細は以下のウェブサイトをご参照下さい。

[http://www.jpгу.org/meeting\\_j2020v/](http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/)

開催セッションとプログラムの詳細は大会トップページの「セッションとプログラム」

[http://www.jpгу.org/meeting\\_j2020v/program.php](http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/program.php) をご覧下さい。

日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2020年大会はアメリカ地球物理学連合 (American Geophysical Union: AGU) と共同で、JpGU-AGU Joint Meeting 2020として5月に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大リスクに鑑み、会期を7月12日～16日に延期しオンライン (virtual) 方式により開催することとなりました。上記のオンライン大会のウェブサイトにはセッションとプログラム、iPosterを用いたオンラインポスター発表 (従来の口頭、ポスターいずれの発表も共通) やレギュラーセッションにおけるリアルタイム討論のための Discussion Forum Session (DFS)、パブリックセッション・ユニオンセッションのライブ配信などについての情報が掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

参加登録は全日程一律の料金で、従来の現地大会の「1日券」(早期参加登録料金) 相当の金額として設定されております。

[http://www.jpгу.org/meeting\\_j2020v/registration.php](http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/registration.php)

本ニュースレター240号でもお知らせしましたとおり、本会会員の開催セッション (学協会セッション) も多数開催されます。多くの会員の皆様の積極的なご参加をよろしく願いたします。

(広報幹事・JpGU担当 角野浩史)

## 学会からのお知らせ

### 柴田 賢 会員のご逝去を悼む



2012年1月 名古屋大学年代測定総合研究センターシンポジウムで質問される柴田賢さん。池田晃子さん撮影。

地質年代学・同位体地学の道を拓かれ、楽しみ歩まれた柴田賢会員が令和2年2月28日にご逝去されました。眠りの中での穏やかな旅立ちで、享年満87歳でした。

柴田さんは、昭和7年8月27日柴田家のご長男として愛知県瀬戸市にお生まれになりました。ご本家は瀬戸品野の柴田酒造、東京でも愛飲された銘酒“明降”の蔵元でした。名古屋大学に進まれ、昭和30年に理学部地球科学科を卒業されました。同級生には、岩石学の服部仁さん、物理探査の中井順二さん、安定同位体の水谷義彦さんなど、研究の道を歩まれた方が沢山おおいになりました。

昭和31年に通商産業省工業技術院地質調査所入所、燃料部石油課に配属になり、石油や天然ガスの地球化学的研究に従事されました。が、“地質年代学を研究したいという衝動に駆られ”、British Councilの留学試験を受け、ケンブリッジ大学に留学された、とは柴田さんの自伝(次記[https](https://sankoukai.org/?page_id=433))です。昭和35-36年のケンブリッジ大学やTrinity Collegeのスケッチなどワクワクする風景は、工業技術院産総研同窓会の「AIST研究秘話」([https://sankoukai.org/?page\\_id=433](https://sankoukai.org/?page_id=433))に詳しく綴られています。より岩石の生成年代に迫りたい！柴田さんは、昭和42-44年にカナダNRC Post-doctorate 研究員としてカナダ地質調査所に出張し、Rb-Sr放射壊変系を用いた更なる年代測定の研究に挑戦されました。

ケンブリッジから帰国後、古い日立製の質量分析計に様々な工夫を加えながら、地質調査所で測定された

K-Ar年代結果が最初に公表されたのは昭和40年でした。この年に十分な焼き出しが可能な三菱製のガラス製アルゴン専用質量分析計が設置され、さらに昭和50年には全金属製のMicromass 6が導入され、微量のアルゴン(若い年代)が測定出来るようになりました。この頃までには日本の代表的な花崗岩や変成岩の年代の概略は判明したように思われ、大学などで測定されたデータも含めて、日本の岩石の放射年代が、昭和57年に柴田・野沢により放射年代図1・2・3として「日本地質アトラス」の中にまとめられました。平成14年名古屋文理大学時代に取り纏められた柴田さんの業績目録には、209編の原著論文、14編の著書と66編の解説・資料が挙げられていますが、地質年代学への興味はそこに止まらず、「飛騨加賀沢の片麻岩には、先カンブリア起源の岩石が含まれているのでは？」との思いは、2019年に竹内・柴田・他で地質学雑誌に公表された、ジルコンU-Pb年代の研究に続いたと思われま。

アミツォク片麻岩が38億年と地球最古の放射年代を持つ事が報告され、地球史に遡る出来事が注目された1971年、名古屋大学の足立守さんにより上麻生礫岩が発見され、柴田さんによりK-Ar年代が16億年、Rb-Sr全岩年代が20.5億年と測定されました。それっ！と全国の地質学者が礫岩を求めてフィールドに走りましたが、上麻生礫岩を超えるであろう古い岩石が見つかったのは令和元年、上麻生礫岩の発見から50年も後、元号が2度も改まってからのことでした。

日光で第5回地質年代学・宇宙年代学・同位体地学国際会議が開催されたのは、昭和57年(1982年)です。この国際会議は、地球化学を牽引するゴールドシュミット会議の前身になった国際会議で、当時は4年に一度開かれていました。本田雅健東大名誉教授を委員長として、地質調査所地球化学課内に事務局が置かれました。会議の内容に精通した柴田さんが事務局長を引き受けられ、地学と英語に堪能な松久芳子さんと共に、準備を進められました。会議は大成功で、これが国内研究者の自信と世界の評判に繋がり、2003年の倉敷、2016年の横浜と、再度にわたるゴールドシュミット会議の開催に発展しました。

Chemical Geologyの編集委員や日本学術会議の委員なども勤められ、日本の地質年代学を牽引された柴田さんは、昭和58年に放射年代の測定により日本地質学会賞、昭和63年には日本列島構造発達史に関する放射年代学的研究により工業技術院長表彰、平成5年

日本地質学会小藤賞（共同），平成14年叙勲，勲3等瑞宝章，平成19年同位体年代学の発展により日本岩石鉱物鉱床学会渡邊萬次郎賞など，たくさんの賞を受けられました。

柴田さんは，地質調査所地球化学課長，地殻化学部長，首席研究官，名古屋大学では年代測定資料研究センター長を勤められ，多くのご指導をいただきました。

そのことからすれば，本文では柴田先生，あるいは柴田部長，と書かせていただくのが筋だったように思われますが，あえて昔通り「柴田さん」にしました。柴田さんと過ごした50年，柴田さんから注意を頂いたことは幾たびか，でも他人の悪口を聞いた事は一度もなく，とても穏やかな楽しい日々でした。

（名古屋大学 田中 剛）

### ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2020年9月頃を予定しています。ニュース原稿は8月中旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

太田充恒  
〒305-8567 つくば市東1-1-1  
産業技術総合研究所地質情報研究部門  
Tel: 029-861-3848; Fax: 029-861-3566  
E-mail: news-hp@geochem.jp

角野浩史  
〒153-0041 東京都目黒区駒場3-8-1  
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻  
Tel: 03-5454-6741; Fax: 03-5454-6741  
E-mail: news-hp@geochem.jp